

事業報告書

<短期計画>

1. 教育活動の改善

(1) 教育環境整備

① ICT（情報通信技術）教育の実施

- ・授業支援 web システムの運用支援と促進を行った。
- ・授業目的公衆送信補償金制度（著作物の教育利用に関する制度）への継続対応を実施した。
- ・オンライン授業の学修支援を実施した。
- ・教育用 P C の順次更新を実施した。

② 教育機器備品の適切な更新

- ・教育機器備品について計画的な更新を実施した。

(2) 教育の質保証と向上

① 学校教育情報の H P による公開を実施した。

② 学校自己評価、学校関係者評価の公表を実施した。

③ 学校評価（自己評価）の精度向上を図った。

(3) キャリア教育の推進

① キャリア・サポーター教職員を中心に入学から卒業までのキャリア教育を推進した。

② 自己表現セミナーの継続を実施した。

③ 就職、進学についてサポートの強化を図った。

(4) 教育活動のサポートの推進

① 新入生に対して学生研修会を実施した。

② 学園祭・体育祭を実施した。

③ 高等教育の負担軽減（給付型奨学金）承認の継続申請を実施した。

④ 学生支援機構奨学金の説明会及び申請等手続きを実施した。

2. 財務体質の改善

(1) 経営基盤強化

① 湘中央生命科学技術専門学校愛玩動物看護学科の運営安定化のため、広報活動等に一層の力を入れた。

② 借入金の借換による年返済額の軽減を実施した。

(2) 収入増

① 入学定員数確保

- ・高等学校内進路ガイダンス、体験学習へ積極的に参加した。
- ・高校訪問による高校への情報提供強化を実施した。
- ・SNS を利用した積極的広報活動を実施した。
- ・時流が総合型選抜試験に移行しつつあるため、総合型選抜試験を増やした。
- ・通信制高校へのアプローチを実施した。

② 中途退学者の抑制

- ・入学前教育による基礎学力不足者の特定とサポートの早期対応と強化を図った。
- ・家計困窮者に対して可能な限りの学費相談と対応を実施した。
- ・スクールカウンセラーの有効的な活用を実施した。

③ 国家試験及び認定試験合格率向上

- ・合格率向上のための教員への事務的サポートを実施した。

④ 就職率の向上

- ・キャリア支援等による学生の就職意識向上に向けた支援を実施した。

- ・就職セミナー開催した。
- ・早期の就職指導と学生の相談対応を実施した。

(3) 支出の抑制

- ① 事業計画に基づく予算作成を実施した。
- ② 予算に基づいた経費支出対応を実施した。
- ③ 半期の各部門予算運用の検証を実施した。
- ④ 光熱費の抑制を図った。
- ⑤ 計画的な人事採用を実施した。

3. 組織の改善

(1) 教職員のスキルアップ

- ① 計画的な教員研修会、学会への参加促進を実施した。
- ② 教職員に必要な知識習得のための研修会への参加促進を実施した。

(2) 業務分担の適正化・効率化

- ① 効果的な非常勤講師の人員配置を実施した。
- ② 事務処理システムを導入して1年経過し、システムの修正等を実施した。

4. その他

(1) 学園規程の見直し

- ① 全規程の見直しを実施した。

(2) 労務管理

- ① 振替休日取得管理を実施した。
- ② 労働安全衛生法に基づく健康診断実施後の措置を実施した。
- ③ 有休消化の促進を継続した。

<中期計画>

2025年度から2029年度まで

- ・ICT（情報通信技術）教育の構築と推進を行う。
端末機器の更新。eラーニングシステム利用により、学生がどこでも学習しやすく効果の高い学習環境が提供できるよう構築を図っている。
- ・質保証と向上への取組を行う。
学校教育情報のHPによる公開継続、学校自己評価、学校関係者評価の公表継続。
- ・湘中央生命科学技術専門学校愛玩動物看護学科の運営安定化への対応を行う。
国家試験合格率、カリキュラム等の差別化、広報に力を入れていくことを継続する。
- ・沖縄アカデミー専門学校の閉校と跡地利用について対応を図る。
跡地売却の方向で動いているが、問合せはあるもののまだ確定していない。
- ・DX等の推進によりにより事務の業務、組織、プロセスを改善していく。
浦添、神奈川と学務システムを導入し1年が経過し、システムを利用して事務業務の分業化を進めている。
- ・収入減少となる中途退学者の抑制を図る。
昨年に引き続き中途退学者は減少している。
- ・収入を増加させるために新規事業の検討を行う。
新事業に関しては、現時点では着手しておらず、今後も継続して検討していく。

<長期計画>

湘中央学園が教育活動の改善、財務体質の改善、組織構造の改善に継続的に取り組み、地道でも安定した教育環境の提供すること。また、教育規模（学校数、学科数、学生数）の拡大と拡充を図り、社会に貢献できる学園を目指した。